



「3.11 からの出発」

第 24 回目の小友小学校訪問

10月29日、第24回目の小友小学校訪問には、7月に引き続き、長野で活動されている語り手のおふたり、吉澤博子さんと滝澤千佳子さんにご同行をお願いしました。当館からは、松岡、小関、内田が参加。5人でいつものように、低・中・高学年の3つのグループにお話を届けました。以下、初めて陸前高田を訪れたおふたりのご感想です。

●小友小学校は、145周年を迎える歴史ある学校でした。校舎1階の壁の上のほうにチュール紙の折り紙が並べて貼ってあり、それがそこまで水が来たしるしだと聞きました。その高さで外の景色を見た時、状況の恐ろしさが分かりました。お話会は、2階の東の端にある音楽室と、西の端にある図書室で行われました。わたしは、3、4年生と、5、6年生で、「スヌークスさん」と地元長野の昔話「法蔵寺のネコ」、それに、わたしのすきな詩をいくつか子どもたちといっしょにたのしみしました。わたしにできる精一杯のお話を届けてきたつもりです。子どもたちには、「楽しい時間がいっぱいあってほしい!」と願った小友小訪問でした。(吉澤博子)

●校庭を元気に走る子どもたち。数日後にマラソン大会があるとのこと。校長先生は「この子どもたちは、全員最後まで走り切るんですよ」と、おっしゃっていました。わたしは1、2年生に「マメ子と魔物」、5、6年生に「風の神と子ども」を語りましたが、子どもたちは、お話も身体中に響かせて聞いてくれました。1、2年生の「おまけ」は、恒例になっている松岡先生の「くらいくらい」です。先生の足元にギュッと集まって座り、胸を高鳴らせて待つ子どもたち。一緒に座ったわたしに「こわいよ!」と囁く2年生の女の子。終わった途端に「アンコール!」の大合唱。アンコールは即興の新しいバージョンです。最後は一斉にひっくり返って大喜び。「ねっ!」と、さっきの女の子が私の膝をゆすりました。きっとこの子たちは、この喜びをこの先誰かに繋げていくでしょう。海風薫る小友小の子どもたちに灯を感じた旅でした。(滝澤千佳子)

「子どもたちに本を贈ろうプロジェクト」

「3.11からの出発」の被災地支援事業は、今後「子どもたちに本を贈ろうプロジェクト」に合流し、幅広い活動をめざします。これは、子どもたちがお話を楽しんだり、

本に親しんだりする環境を整えるため、募金をもとに、学校図書館や幼稚園などに、本のセットを贈るプロジェクトです。

特別な災害のあった地域の子どもたちへの贈呈を最優先しておりますので、どうぞお申込みください。

参加方法は、ホームページ、機関誌「こどもとしょかん」158号をご参照くださるか、お問合せください。http://tcl.or.jp/ 子どもたちに本を贈ろうプロジェクト

月例お話の会・12月

「子どもたちに本を贈ろうプロジェクト」チャリティ 報告

資金調達のためのチャリティお話会が、12月20日、午後と夜の2回にわたり行われました。児童室のクリスマス会で上演した影絵「こまどりのクリスマス」、多彩なゲストによるお話、松岡名管理事長の朗読など、たっぷりとお楽しみいただけだと思います。(プログラムはホームページ参照) また佐藤英和氏からの提供品のサイレントオークションが行われ、これを含む収益39万円は、全てこの事業にあてさせていただきます。(参加者：第1部・第2部 各66名)

プロジェクトにご協力くださった方からのお便り

11月からの3日間、小学校の全クラスで、「愛蔵版」に載っているお話の中から語りました。語った後に、「去年は、私が語ったお話が載っている『愛蔵版おはなしのろうそく』が学校になかったので、『プレゼントできたらいいな』と思い、東京子ども図書館にお願いしました。その願いがかなって今日はそれを持ってきました!」と各クラスで見せたところ、歓声があがりました。

学校を代表して、6年1組に、特典の話名索引と共に手渡しました。「話名索引の使い方もみんなに教えてあげてね」と頼んだところ、「はい!」という子もいれば、「俺、ちゃんと説明できるかな……」と言って索引を手にとって見ている子もいました。

学校司書の方は「予算のことがあって、なかなか入れられなかったのですが、今回寄贈ただけでありがたいです。特に今ある昔話の本は古いものばかりで、子どもたちがなかなか読もうとしなかったのですが、これからはこの可愛い本を手にとってくれると思います。」とおっしゃっていました。

このプロジェクトのお蔭で、子どもたちと本を結びつけるお手伝いができ、とても嬉しく思いました。東京都・内田ふみ子